

## 電照抑制栽培による6月～9月出しに適する無側枝性キク品種 「精の輝」の特性と作型

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部  
担当者：金子英一

### 研究のねらい

無側枝性キクは腋芽(側枝)の発生が少なく、摘芽・摘蕾作業の省力化が可能であるが、夏秋ギクの白品種「岩の白扇」が普及しているにすぎないので、電照抑制栽培による長期出荷が可能で、葉焼けや奇形花等の問題のない**黄色**の品種の選定と作型の開発を行う。

### 研究の成果

- 「精の輝」の特性
  - 黄色の受け咲きの品種である。
  - 葉焼けや奇形花、早期発蕾・開花の発生はほとんどなく、腋芽の発生は8月、9月出しでは「岩の白扇」よりやや多い。
  - 草丈の伸長は非常に良いが、消灯後の到花日数が長く、60日余り必要である。
- 「精の輝」の作型
  - 親株の加温栽培開始時から電照し、定植の2週間前にさし芽を行う。定植後草丈が40cm以上に達する30日目ごろ消灯すると、消灯60日余り後に十分な切り花長を確保し、採花が可能である。
  - 6月出しは、親株栽培から最低15の加温、電照栽培を行い、2月下旬にさし芽し、3月上旬に定植、4月上旬に消灯をすることにより、6月中旬に採花が可能である。腋芽発生を抑制するために定植から4月中旬まで蒸し込み等による日中30、6時間程度の高温管理を行う。
  - 7月出しは、親株栽培から最低15の加温、電照栽培を行い、3月下旬にさし芽し、4月上旬に定植、5月上旬に消灯をすることにより、7月中旬に採花が可能である。
  - 8月出しは、親株栽培から電照を行い、4月下旬にさし芽し、5月上旬に定植、6月上旬に消灯をすることにより、8月中旬に採花が可能である。
  - 9月出しは、親株栽培から電照を行い、5月下旬にさし芽し、6月上旬に定植、7月上旬に消灯をすることにより、9月中旬に採花が可能である。
- 現在の6～9月出し用の黄の主力品種は無側枝性キクではないので、無側枝性キク品種「精の輝」の栽培により摘芽・摘蕾作業を大幅に省力化できる。

### 普及上の留意点

- 自然開花期は8月上旬であり、6月出し、7月出しについては親株栽培から加温栽培する必要がある。
- 土壤水分が多いと草丈が伸びすぎるので、水分管理はやや乾燥ぎみに管理する。
- 花首長がやや長いのでわい化剤(ビーナイン)の処理が必要である。
- 定植から消灯までの期間は「岩の白扇」より10日程度短くてすむが、消灯後の到花日数は2週間程度長くなる。



精の輝

表1 品種の特性

	葉焼け の発生	早期発蕾 の発生	奇形花の発生	上位70cmの腋芽の発生数		
				7月出し	8月出し	9月出し
精の輝(黄)	無	無	無	9.5	6.2	6.6
松本の丘(黄)	無	多	多(貫生花)	6.9	4.1	2.7
明神(黄)	多	少	無	9.6	3.0	2.3
笑山(黄)	無	無	多(扁平花)	10.0	7.3	6.1
東海福祉(黄)	無	無	少(扁平花)	-	3.8	2.5
笑盃(黄)	無	多	無	-	4.4	2.3
文化の旭(黄)	無	多	無	-	3.8	2.5
岩の白扇(白)	無	無	多(扁平花)	15.9	4.6	3.2

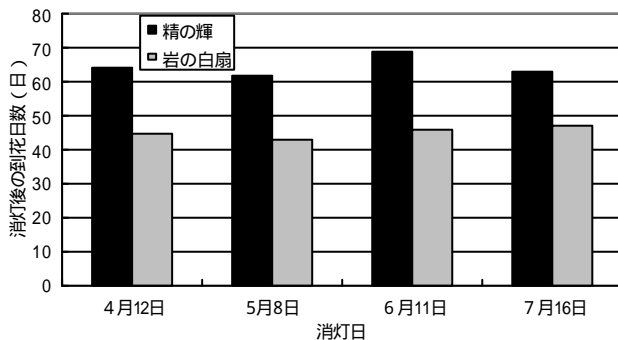


図1 「精の輝」および「岩の白扇」の消灯後の到花日数

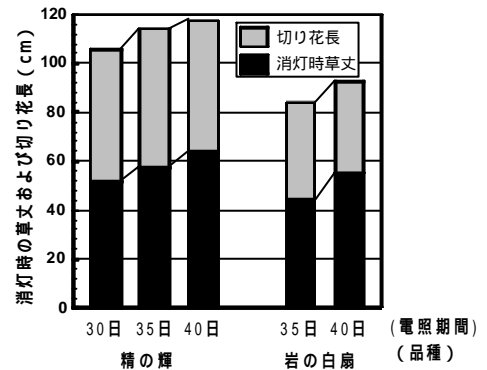


図2 電照期間と消灯時の草丈および切り花長

「精の輝」の作型

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
6月出し		15 加温 x						
7月出し			15 加温 x					
8月出し					x			
9月出し						x		

x : さし芽      : 定植      : 消灯      : 採花